

### 3. 社会環境

#### 3-1 土地利用

流域内の土地利用状況は、平成 16 年現在、農地 19%、山林等 78%、宅地 3%という内訳になっている。

流域内市町村（鶴岡市の旧鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村地区、ならびに三川町）について農地の田畑の比率を見ると、農地の約 84%を水田が占めている。また、山形県全体の約 17%の水田を占める穀倉地帯である。

流域内市町村について民有地の土地利用状況の変遷を見ると、昭和 40 年以降民有地の割合は増加傾向にある。その中で山林と宅地が増加傾向にあり、逆に原野部と水田はやや減少傾向にある。

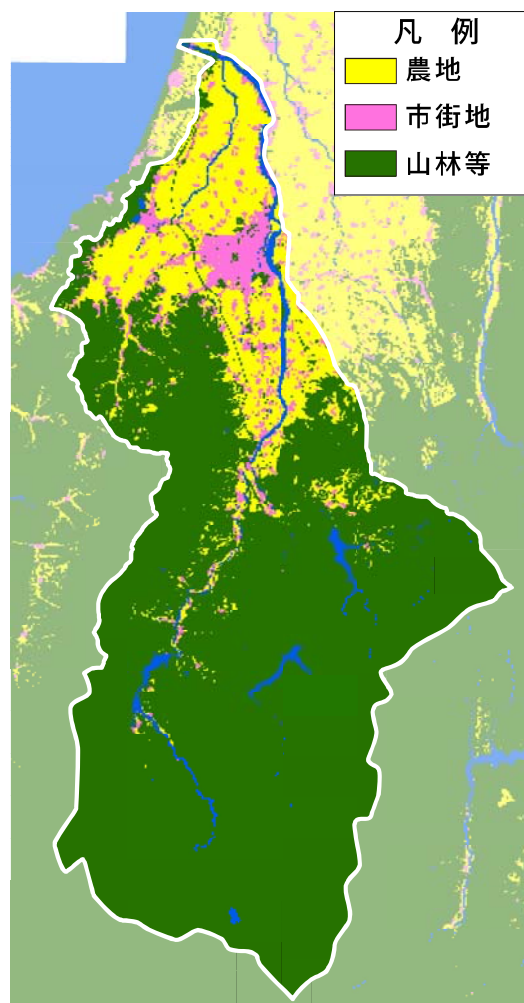
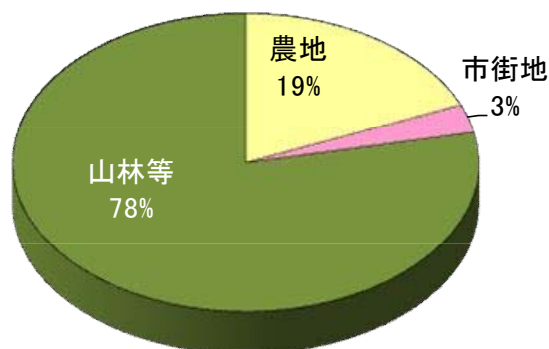


図 3-1 赤川流域の土地利用面積（H16 年 10 月現在）



米どころの庄内平野

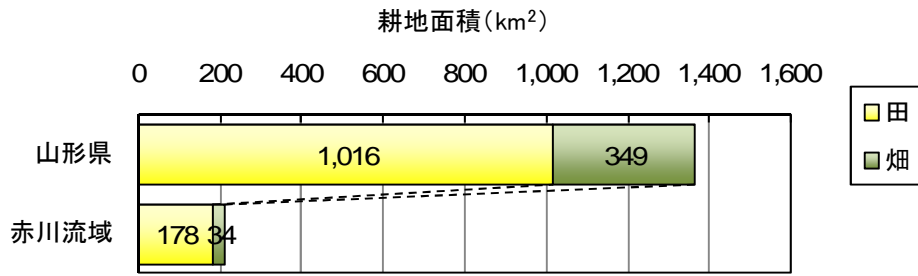


図 3-2 山形県と赤川流域内市町村の耕地面積比較 (H16 年 10 月現在)

(山形県統計年鑑より、鶴岡市(旧鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村)、三川町の土地利用状況、民有地の土地利用状況を集計)

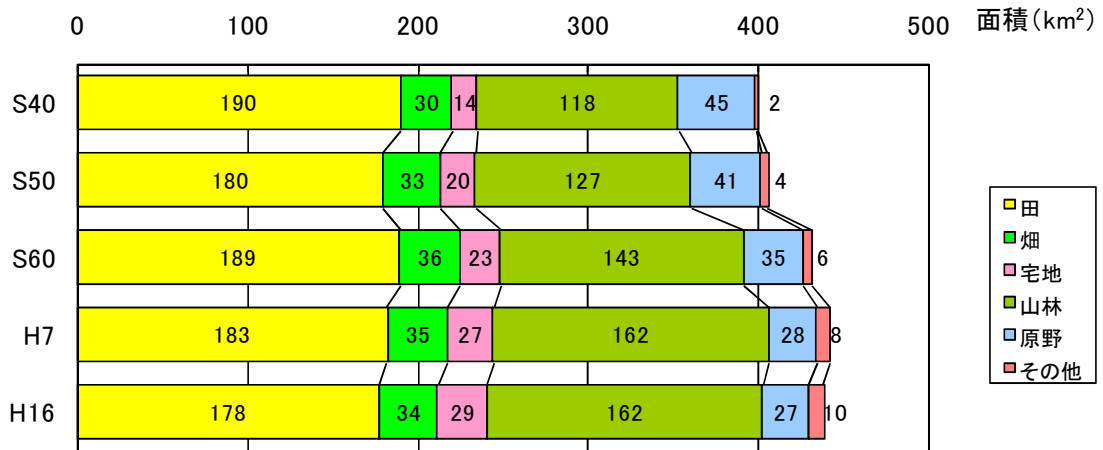


図 3-3 赤川流域市町村の民有地土地利用面積の変遷

(山形県統計年鑑より、鶴岡市(旧鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村)、三川町の土地利用状況、民有地の土地利用状況を集計)

### 3-2 人口

赤川流域は、山形県の人口の約9%を占める。流域内市町村の人口推移を見ると、旧鶴岡市地区は昭和60年代までやや上昇傾向が見られ、その後横ばいとなっている。逆にその他の地域では昭和30年～50年代にかけて人口の減少が大きく、その後も若干の減少傾向が見られ、流域全体で見るとやや減少の傾向にある。

人口密度の経年的な変化を見ると、山形県全体では若干低下傾向にあり、旧鶴岡市地区と三川町が全体平均を上回る人口密度となっている。

表 3-2 流域内市町村人口の変遷

	鶴岡市					三川町	酒田市	山形県 (参考)
	(鶴岡市)	(藤島町)	(羽黒町)	(櫛引町)	(朝日村)			
S30	85,041	17,182	13,760	10,626	14,470	10,751	96,735	1,353,649
S40	95,615	14,868	12,096	9,805	9,722	9,371	95,982	1,263,103
S50	95,932	13,454	10,593	8,545	7,386	8,383	97,723	1,220,302
S60	100,200	13,412	10,443	8,615	6,711	8,511	101,392	1,261,662
H7	100,538	12,414	9,988	8,742	6,309	8,188	101,230	1,256,958
H17	98,127	11,595	9,323	8,320	5,378	8,003	98,278	1,216,181

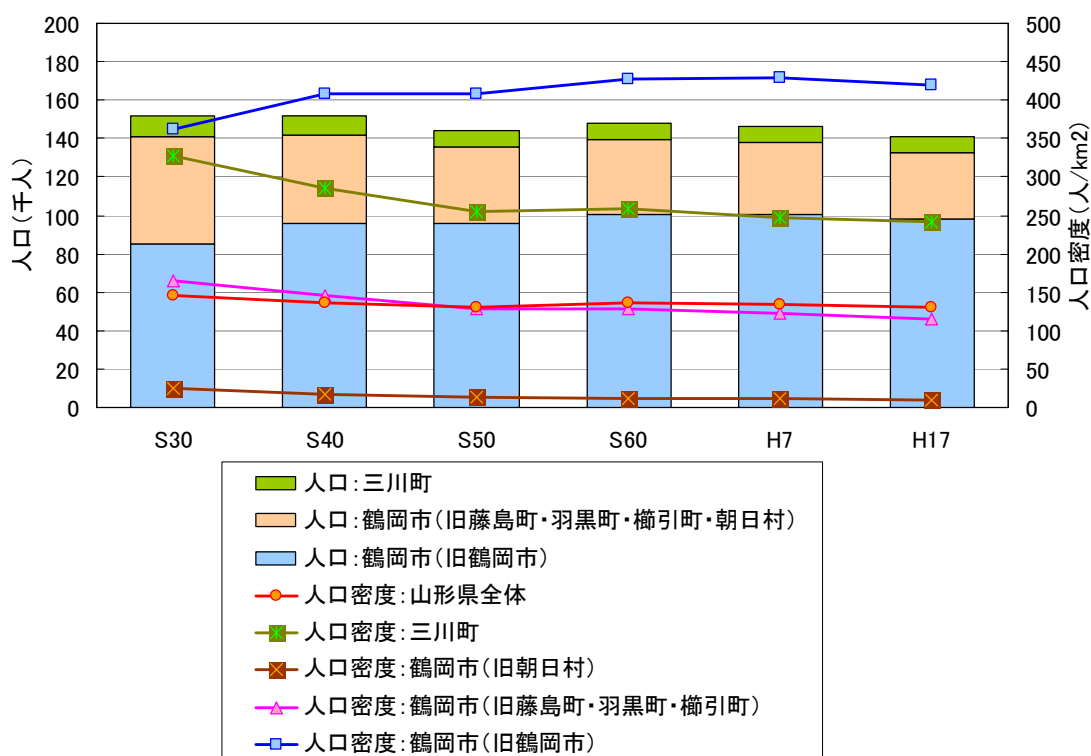


図 3-4 流域市町村人口の推移

(国勢調査より、鶴岡市(旧鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村)、三川町の人口を集計)

### 3-3 産業

赤川流域の産業大分類の就業者人口の推移を見ると、第一次産業就業者人口の減少と第三次産業就業者人口の増大の傾向が顕著に見受けられる。第二次産業就業者人口は増加傾向にあったものの、バブル経済期以降はやや減少傾向に転じている。

市町村別に見ると、流域の中心部をなす鶴岡市（旧鶴岡市地区）では就業者人口の総数が増加しているものの、その他の地域では全体数が減少傾向にある。

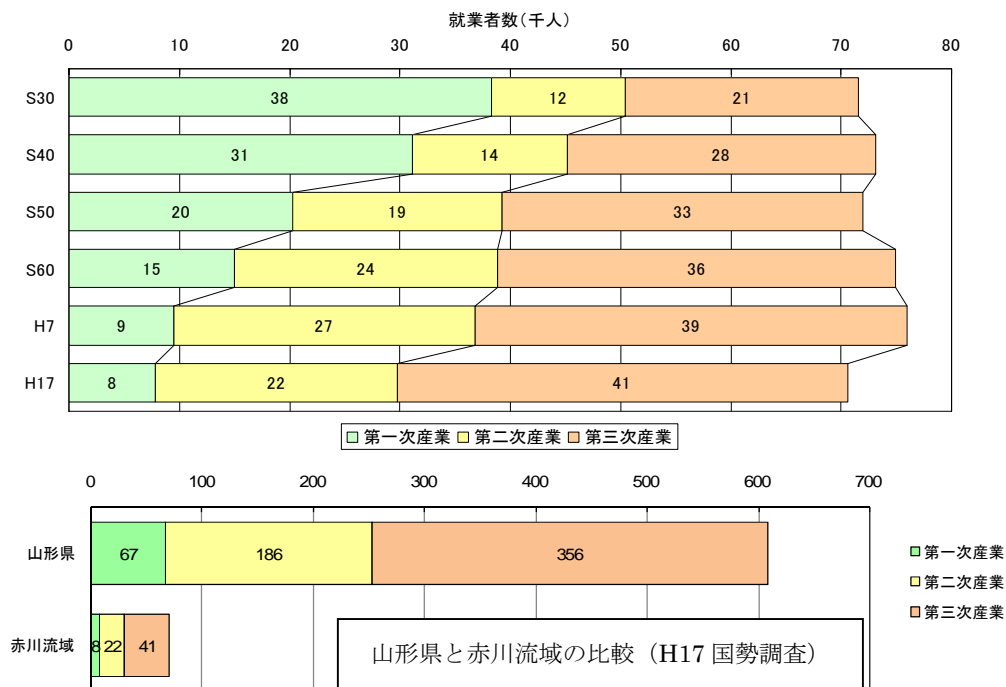


図 3-5 産業別就業者人口の推移

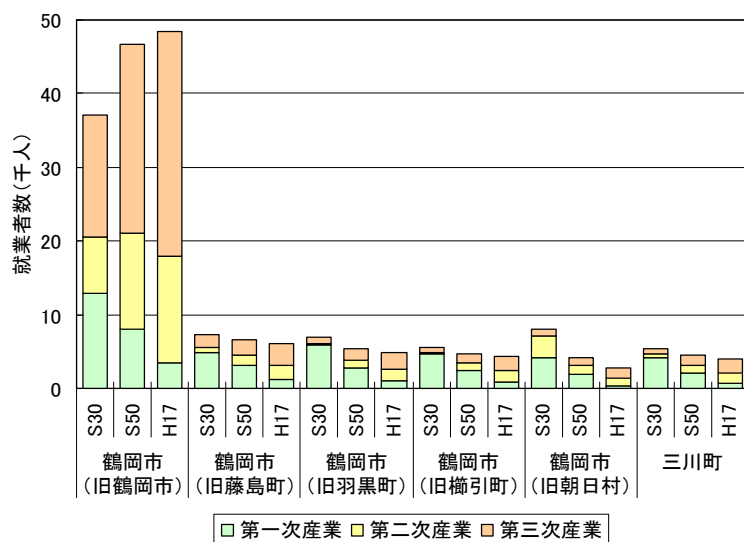


図 3-6 旧市町村区分別産業別就業者人口の推移

(国勢調査より、鶴岡市(旧鶴岡市、羽黒町、榑引町、藤島町、朝日村)、三川町の産業別就業者数を集計)

流域の中下流部を構成する庄内平野は、最上川・赤川の河口部に開けた扇状地からなっており、おおよそ南北 100 キロメートル、東西 40 キロメートル程の平野である。

流域の上流部の三方は出羽山地・朝日山地・摩耶山地の高い山々に囲まれており、平野を潤す融雪水が供給される。また、庄内地方の夏は、月山などの山々を越えて吹き下ろしてくる風が夏の太陽に温められ、このような好条件が整い、庄内平野では米作りが盛んで、平成 18 年の市町村別の米の産出額では全国で 5 位につけている。

流域内市町村農業算出額の約 60%を「はえぬき」を代表とする庄内米が占める。次いで、「ただちや豆」などの野菜が約 20%を占めている。

「ただちや豆」は赤川流域の旧鶴岡市のごく一部のみで生産されているブランド枝豆であり、他にも庄内柿に象徴される「平核無(ひらたねなし)」の産地であり、平核無の生産量は全国 2 位をほこる。

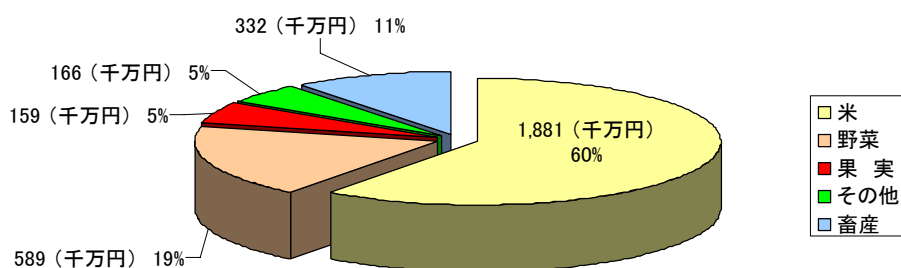
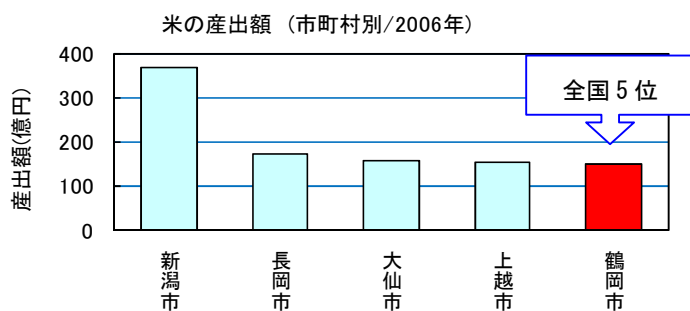
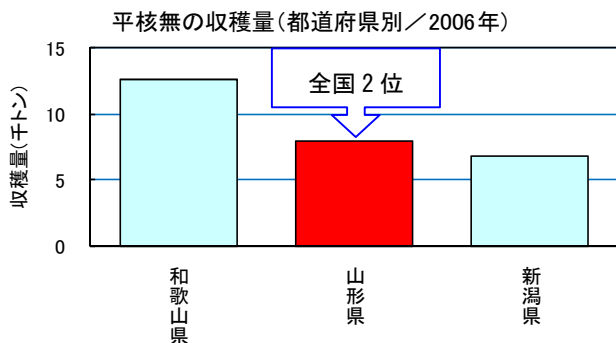


図 3-7 農業生産額 (平成 10 年～平成 16 年平均値)

(山形県統計年鑑より、鶴岡市(旧鶴岡市、羽黒町、櫛引町、藤島町、朝日村)、三川町の農業産出額(農業粗生産額)を集計)



ただちや豆



庄内柿

図 3-8 米の産出額および平核無の収穫量 (平成 14 年)

(農林水産省統計資料より作成)

### 3-4 交通

流域内の拠点都市である鶴岡市では、北部から東南部にかけて縦断する山形自動車道と国道112号、東西方向にはJR羽越本線や国道7号が整備されて、交通の要衝となっている。これらの主要交通網は、氾濫区域内に位置していることから、これらの機能を浸水被害から守ることは、社会経済活動を保持する上で重要となる。

